

令和2年度第2回 岡山県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年1月22日(金)〈開会：13時10分、閉会：13時50分〉

2 場 所 県庁3階第1会議室

3 出席者 知 事 伊原木 隆太
教 育 長 鍵本 芳明
教 育 委 員 田野 美佐 松田 欣也 梶谷 俊介
上地 玲子 服部 俊也
岡山県立和気閑谷高等学校長 藤岡 隆幸

4 協議事項に係る出席者の発言

【総合政策局長】

ただ今より、令和2年度第2回岡山県総合教育会議を開催いたします。
議事進行を、議長である知事をお願いいたします。

【伊原木知事】

皆様、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

本日の会議のテーマは、「GIGAスクール構想」についてであります。県立学校におけるGIGAスクール構想の推進につきましては、9月にプロフェッショナル人材2名を委嘱し、専門的な知見の活用を図るとともに、今年度中に全学年の普通教室への整備が完了するよう、校内通信ネットワーク工事を順次進めているところであります。また、高等学校の生徒1人1台端末を、学校の実情に応じて、来年度または再来年度の新入生から順次導入してまいります。

本日は、高等学校のGIGAスクール構想の推進に向けた課題や来年度の取組等について、忌憚のないご意見を頂きたいと考えております。

それではまず、現状とこれまでの取組などについて、説明をお願いします。

【高校教育課長】

高校教育課でございます。資料のほうをご覧ください。

「県立高校におけるGIGAスクール構想に関する取組」ということで、まず県の教育委員会の取組を中心にご説明させていただきます。

「1 学校ICT環境の整備」でございます。県立高校では、コロナ禍の中、昨年3月から2度の臨時休業に見舞われましたが、ICTの整備につきましては、そういう状況

がありまして、逆に進展したというような状況でございます。大きく、GIGAスクール構想の早期実現、もう一つは、臨時休業時においても児童生徒の学びを保障する、この2つの柱で、高速大容量の通信環境でありますとか校内の無線LAN環境、こういったものの整備を進めてまいったところでございます。取組を着実に進めるために、6月にロードマップを作成しまして、そちらに表で載せておりますが、こういった項目について一つ一つ取組を進めてまいりました。

生徒1台端末につきましては、表の一番上のところでございますが、来年度の入学生またはその次の年、令和4年度の入学生から、順次、個人購入により導入ということでございまして、来年度約7割の学校が導入することになってございます。

表の2段目以降、教員の1人1台端末、無線LAN環境等ございますが、多くのものは既に導入済みの状況、あるいは取組済みの状況になってございます。校内無線LAN環境は、3月までを想定し順次工事を進めているところでございます。

それと、学校と外部をつなぐ、いわゆるインターネット接続回線でございますが、これもほぼ工事が終了しております。学校のほうからは、動画等が非常にスムーズにつながるという声も聞いているところでございます。

下から2段目、教員のICT活用指導力でございますが、これも引き続き対面の研修でありますとかeラーニングを活用した研修等を実施しております。

加えて、アカウントでございますが、今年の1月から、これまで学校独自に取っておりましたドメインのアカウントを県統一ドメインに移行いたします。このことによって、人事異動等がありましても、学校の教材等を同一のクラウドの中で管理でき、場合によっては学校の垣根を飛び越えた研究なども可能になると思っているところでございます。

「2 今後の取組の方向性」であります。県教委としましては、ICT支援員等を学校に巡回させまして、教員が新たな学びの構築に集中できる環境を整えていきたい、加えて研修の充実も図ってまいりたいと考えています。

さらに、1人1台端末先行導入校の操山、林野、和気閑谷の3校につきましては、県のリーディングケースとして、より高いレベルの研究、成果の普及をお願いしたいということで、来年度事業を考えているところでございます。そして、導入校は幅広く1台端末の効果検証も併せて行いたいと思っております。1つは学びがどう変わっていったかということで、ステップ1からステップ3まで、初歩の段階から各教科の学び、さらには教科横断的な学びということを考えております。これを、教員・生徒の両面からアンケートをとりまして効果を検証していきます。加えて、民間の学力診断ツール等で学力を計測しながら、学習時間も合わせて分析をし、検証をしていきたいと思っているところでございます。

学校の取組につきましては、まずはICT支援員をしっかりと活用していただいて、円滑に4月からの導入ができるようにということと、これまでのいわゆる対面的な学びとICTの学びを、どういうふうにベストなバランスで持っていくのかということに、来年度

はしっかり取り組んでいくよう指導してまいりたいと考えているところでございます。
以上でございます。

【伊原木知事】

ありがとうございました。
続いて、和気閑谷高校の校長にお越しいただいています。ありがとうございます。
では、発表をよろしく申し上げます。

【藤岡校長】

失礼いたします。校長の藤岡でございます。今日は、スライドを用意いたしておりますので、そちらを基に説明させていただきます。よろしく申し上げます。

最初に、平成30年度入学生から、年次進行で1人1台端末を導入した理由と、現在の活用の考えを併せて示しております。学校のねらいとしましては、「誰一人取り残さない学びの実現」と「情報活用能力の育成」であります。

まず、生徒の実態から申し上げますと、学習意欲等の低調さから、先生方は講義形式の授業に行き詰まり感を覚えていたということで、端末を利用したグループやペアの活動を取り入れ、深く調べる、対話するなどの機会を積極的に設けて、力を育成していきたいという考えであります。2つ目に、基礎学力の定着を図り、一人一人に応じた対応により、学力向上や家庭学習時間の増加につなげていきたいという考えでございます。3つ目に、1人1台端末とWi-Fi環境を整えることで、場所や時間を選ばない学習環境の構築と、生徒の情報活用能力の育成を図りたいという、この3点から導入を考えたということでございます。

続きまして「環境づくり」であります。現在、約400台のiPadを運用しております。写真は普通教室の様子で、普通教室における授業全てで円滑に使用できる環境づくりを目指しております。短焦点プロジェクターとスクリーンは、平成26年度から全普通教室および一部の特別教室に整備をしております。また、1人1台端末の運用に向け、Wi-Fiアクセスポイントの設置、校内通信ネットワークの強化、モバイル端末の一元管理システムを平成29年度から、これは1人1台端末を入れる前年度でありますけれども、順次導入をしております。

次に、端末でありますけれども、iPadを選定しております。iPadを選定した理由であります。iPhoneを所持する生徒が多いということで、OSになじみがあること、アプリが豊富で教材の選択の幅が広がること、小型、軽量で操作性が良いということで、タブレットとしての使いやすさがあったということで、導入時判断をしております。保護者は入学時に、これは教材を含みますけれども、6万5,000円を納入していただいて、3年間(35カ月)のレンタル方式で契約をしていただいているということでもあります。

次に、今年度の状況であります。導入から3年目、本年度は全生徒が所有している状況

です。昨年度夏まででありますけども、実際のところ iPad の活用に向けた校内体制、研修状況は必ずしも十分ではありませんでした。新学習指導要領への対応に向けて、今年度、教務課の中に研究開発室を設け、この1年間をかけて授業での活用、研究、研修に取り組む予定と当初はしておりました。ですが、昨年度末から今年度初めにかけて、新型コロナウイルス感染拡大により県下一斉の長期の臨時休業となりましたことで、家庭学習のオンライン支援の実現という活用レベルへと、一気に求められるレベルが引き上がったという状況でございます。臨時休業中は、研究開発室を中心に、教員自ら講師となり、また総合教育センターから講師を招いて、県教委が推奨します **G Suite for Education** というアプリ群の活用や、校務の効率化に向けた教員研修、研究授業、校内通信の発行などを積極的に行い、指導力向上に努めております。

次のスライドでございます。4月20日から5月末までの臨時休業中の対応についてであります。生徒の学びを止めないという観点で、先ほどの **G Suite** を活用して、すべてのHRと教科・科目で、**Google Classroom** を用いてオンライン上にクラス（教室）を作成しております。そして、通常の間割に沿って家庭学習の支援をいたしました。

右端であります。Google カレンダーに示された間割です。色付きのセルをクリックするとビデオファイルにリンクし、授業が配信されてオンライン学習が可能になります。こうした取組を踏まえて、今後の休業時のオンライン学習に備え、授業の受け方についての校内ルールをその後、作成いたしております。

次のスライドでございます。ここからは、本校が現在 **G Suite** のアプリ群や民間の学習アプリを活用して行っている取組を、かいつまんで紹介させていただきます。

まず、国語科であります。生徒一人一人の考えを共有するという場面において、文書作成ツールの **Google ドキュメント** を使い、これは同時アクセスと編集が可能ですので、「ねらいと効果」にありますように、意見の共有が容易に行え、人前で話しにくかった生徒も含め意見を出しやすくなっているという状況でございます。

次に、数学科であります。数学科では、基礎学力の向上に向けてAI教材の **Qubena**（キューベナ）を3年前から活用しています。主に1年次生、数Ⅰ、数Ⅱの授業で、授業冒頭の10分間、中学校までの内容の復習などを行っています。AIが理解度に応じた問題を出題することで、効果的、効率的に学習が進められ、個々の状況に応じた指導を高めることができます。そして、家庭学習など、授業以外に各自で取り組む意欲喚起にもつなげていきたいと考えております。教員は、生徒個別の学習状況や、つまづき、誤答を把握できますので、支援することに集中でき、また小テストなどの問題作成や採点を行わなくても済むという利点がございます。

次に、英語の授業であります。英語の授業で、表現活動をより活発に行う上で、デジタルホワイトボードであります **Google Jamboard** を使い、付箋に意見を書き出し、色を変えたり並び替えたり、そして意見交換をしたりして、思考の整理、分析がより効果的に行えています。また、本年度から4技能の習得に向けて、1年次生はNTTドコモの **English 4**

skills というソフトを活用しています。授業の冒頭 10 分間を用い、4 技能の学習課題に取り組みさせています。右の写真は、発音練習をしております。自分の発音を吹き込むわけですが、自動判定を機械がします。教員は、生徒の入力状況が集約でき、録音音声を再生、公開できますので、良い発音の例を教室全体で共有することができます。

次に、家庭科と保健体育科であります。家庭科では、授業の振り返りの際に Google ドキュメントを使い、意見を一覧にして共有しています。ほかの人の意見を知ることで、学習内容の理解をより深めることができ、教員は生徒それぞれの理解度を把握することができます。

右側の体育であります。体育では動画を撮り、その場で動作を確認したり、ゲームを行う際にその様子を振り返る場面で活用をしています。改善点を視覚的に確認でき、技術向上とともに、生徒の主体性や意欲の向上につなげております。

続きまして、総合的な探究の時間、「閑谷學」の活動です。ネット環境が整えられることによりまして、教室外での活用が可能となり、フィールドワークでの情報収集、整理・分析、共同編集をしたり、発表資料の作成、データ保管に効果的となっております。それまでは、作業を行うためのコンピューター室の予約やデータ管理といった課題がありましたけれども、効率性が一気に高まったということになります。また、データはクラウド上に保管するため、教員は資料作成の進捗状況を確認しやすく、共同編集ができますので、教員のほうもその作業に加わることができ、アドバイスも適宜行うことができます。

次に、「その他」でございます。左側のように、本校では1学期と2学期の末に、保護者、生徒、教員で3者面談を行っております。生徒が、その学期の取組などの振り返りと、今後の抱負を説明する機会としておりますが、その際に iPad のプレゼンアプリ、Keynote などでスライドを作成して、自分の取組を振り返り、説明をしているということです。

また、右側は、本校では授業改善に向けて、生徒からなります授業委員会を置いて、教員と生徒双方の意見をつないでいく取組を行っております。この2学期末には、生徒から、生徒が主体的、意欲的に学べる、iPad のより積極的な活用に向けた授業の工夫を求める意見が出されました。「もっと、先生方しっかり iPad を使ってください」というメッセージでもあります。

続きまして、iPad 導入初年度生です。現在3年目を迎えます3年生のことではありますが、その意識の変化であります。平成30年度の入学生ですが、導入初年度の1年次の10月と、本年度3年生になりました昨年の12月に、全員を対象に同じ調査を行いました。質問は4択で、肯定的回答は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた数字で、青色の部分であります。左から、「iPad を活用した授業は必要である」「授業内容を理解するのに役立つ」「プレゼン力が身についた」の項目、いずれも肯定的回答が伸び、85%と高い評価となっております。特に、プレゼン力の項目は約25ポイントの伸びで、生徒は効果を実感しているようであります。

次に、教員の調査であります。平成30年度ではiPad 導入は1年生のみでしたので、調

査対象を1年次の授業に行く教員としております。今年度は全教員を対象とした調査としておりますので、母数が大きく変わっております。また、3年前と今年度の使用環境が大きく変化しておりますので、現時点で十分比較できる材料となりませんことをご了承ください。

項目のうち、左から2つ目の、「生徒の関心・意欲を高めることに効果的である」という以外は、肯定的回答は下がっておりますけれども、左側4つの項目は、2カ年とも8割前後と高い状況でございます。一番右の端です。「iPad等をうまく使いこなせる」については、前回は導入間もないことから高くなく、今回はさらに16ポイント下がっております。これにつきましては、iPadの機能を単純に使うかたちから、G Suiteという様々なアプリを活用することや、臨時休業にオンラインの支援という形態を実現することなど、多岐にわたる活用方策を求められるようになったことから、うまく使いこなすという意識については、教員自身の評価が厳しくなったものと思っております。いずれにしても、生徒の実態を踏まえまして、何のために、何がしたいのかという教員のねらいをもって、そのために用いるツール、機能、使い方をよく知って、そして実施した後はその効果について検証して、試行錯誤を繰り返していく必要があると考えております。

次に、「成果」でございます。これまでの取組の成果として、4点を挙げております。

まず、学びに向かう姿勢、意欲の向上が見られているということであります。これは、生徒のアウトプットする機会を多くし集中力の持続、授業態度の改善が見られたということや、授業に参加したという達成感を得られやすくなったこと、それから画像や映像の利用が気軽にできるようになって、イメージしやすく理解度が増したということが考えられます。

2つ目に、対話的・協働的な学びの実現ということで、単に情報の共有だけでなく、活動の共有ということ意識しております。学び合い、助け合いの様子が見られるとか、あるいは他の人の様子が分かる、考えが分かるということで、授業への参加の安心感が増したということが見て取れます。

それから、3つ目であります。オンライン教材、先ほどのAI教材などの活用により、個別理解度に応じた学習が可能になったことであります。

4点目としまして、教員が生徒の理解度を確認しながら授業進行が可能になったということで、生徒の意見を瞬時に確認したり集約したりできること、生徒の学習状況に合わせた授業づくりや、多様な評価の実施が可能になることと、板書時間や小テストの採点などを自動でもらえますので、省力化が図れるといった利点もございます。

最後に、今後に向けてであります。次のことにさらに取り組んでいきたいと考えております。まず1つ目です。授業での一層の活用であります。全教員で引き続きまして継続的に研修や研究授業に取組み、やはり教員の意識改革というのが大事になってくると思いますので、効果的な活用に向けた教員の指導力向上と共通理解を図ってまいりたいと思います。それから、様々な学習ソフトもございます。さらなる個別最適な学びのある授業の実

現や費用対効果を検証しながら、既存の学習ソフトの効果的な使用を図り、授業理解と家庭学習の定着を図るための流れを確立してまいりたいと考えております。

もう一点は、校務の効率の観点から、校務での一層の活用を図ってまいりたいと考えてございます。

なお、最後でございますが、本校では来年度の入学生からは、端末を iPad から Chromebook へ変更したいと考えております。変更理由としましては、Chromebook は G Suite for Education の一層の活用をする上で最適な端末であること、それからクラウド上の管理コンソール、これはシステムですが、一元管理ができ、アップデートも自動で管理がしやすいこと、それからキーボードが備え付けでありますので、やはり入力という点では、直感的操作の iPad もいいのですが、Chromebook 利用のメリットを踏まえて選定を変更することにしております。

簡単ではありますが、説明は以上でございます。

【伊原木知事】

どうもありがとうございました。大変勉強になりました。

その報告を踏まえて、それぞれの皆さんに、どのようなことでも結構ですけれども、ご意見を伺いたいと思います。

【教育委員】

私は、先ほどの和気閑谷高校の話をお聞きして、とてもうまくいっている印象を受けました。子どもたちが板書を見るより、視覚で見るとほうがイメージしやすいですし、今まで意見が言える子と言えない子の差があったのが、iPad 上で言えて、またみんなの意見が集約できるので、子どもたちにとってとても良いのではないかと思います。

端末の操作が苦手な先生が、それを克服するところはちょっと難しいかなと思ったんですけど、すごくいい取組だと思います。これが今後広がっていけば、子どもたちも高校生になると、それぞれの将来によつての選択で高校を決めるので、その科目に応じたことができて、とてもいいのではないかと思います。

保護者として懸念されるのが、同じ姿勢でずっと画面を見ているので、視力とか、肩凝りとか、体に与える影響がどうなのかなと。今ごろはスマホ老眼と、若い子でも老眼になるという話も聞くので、そういう身体的なものがどうなのかなという不安もありました。

【伊原木知事】

新しい取組ですからね。

【教育委員】

県立高校からは外れるのですが、これを導入するに当たって、小学校、中学校も入るの

で。高校生になるとスマホを持っている子どもたちが多いため、自分でできると思うんですけど、小学校の低学年はなかなか使いこなせない。学校だけでは難しいので、そこら辺は家庭学習での取組方を保護者に周知していく。今までは、子どもにどんな宿題が出ているか把握していない保護者も、これを導入することによって、自分の子が今どういうふうなかたちなのかということも把握できると、やっていない子に保護者がさせるようにとか、そういう共通なものもこれからできればいいのではないかと思います。

あと、話は違うんですが、私立高校が全部ネット出願になって大変なようです。学校名を間違えて違う中学校から出願してしまったとか、お金はまだ振り込んではいけなくてお金を振り込んでしまったとか。保護者も慣れてないから、すごく大変だという話をいろんなところから聞いているので、今後に向けて、保護者も勉強する機会を設けるためにも、これからは全員が一丸となってすることが大事なのではないかと、すみません、保護者的な立場なんですけど、思いました。

【伊原木知事】

ありがとうございました。

【教育委員】

和気閑谷高校の成果で、やっぱり学びに向かう姿勢、意欲の向上、これが起きたのが一番大きいという感じはいたします。そういった意味で言うと、GIGAスクールのいろんなツールがどんどん入ってきますけども、これを効果的な学びにどうつなげていくかという意味で言うと、おそらく今までの授業の経験値だけでは足りない部分とか、教師の教え方というか、教えるところからどう引き出すかとか、そこへどう変わっていくかということでしょうから、教員の指導力向上と共通理解をどこまでできるかが一番大きな課題で、ここがかなり学校で差が付く可能性があります。その知見がまだないということなので、その知見をどう高めていくかが、これからは非常に重要になってくると思います。

先ほどの和気閑谷高校の授業委員会は、生徒も入って一緒にやっているというのが非常に有効なのかと。生徒自身がどういう授業をやりたいかが出てくるというのは、非常に大きな可能性があります。今までは、どちらかという先生がよく知っていて、それを教え込むというスタンスからこういうやり方になると、今の段階で言うと、先生と生徒の知見がほぼ一緒くらいということになると思います。そういった意味では、生徒と一緒にどう授業をつくっていくかと、そんなことをやっていく中で先生方の意識も変わってくる。それが、親だとか我々もそういうスキルを身に付けるところにつながるのかなと思いました。

それからもう一つ、長期的な視点で言うと、こういうGIGAスクールというか、オンラインでの授業だとか、いろんなことができるようになると、今、高校の規模が3クラス以上要するというので、高校を再配置で統合して集約するという方向です。そうすると、

高校がない地域だとか、通学に時間がかかるところが、こういう授業を使うことによって、高校の在り方、規模感も変えていくことができるのかなど。オンラインの授業とスクーリングを組み合わせることによって、通信制の高校がありますけれども、それを普通の高校でもうまくやることによって、高校がどんどん減っていくところが、人口減少の社会に向けて、残しながら授業の質を上げる、そういったところもにらみながら、GIGAスクールを考えていくということも必要かなと思っています。

【伊原木知事】

どうもありがとうございました。

【教育委員】

今のご説明を伺っている限り、ネット上に新しいリアルじゃない教室、学びの場が作り出されたんだろうな。だから、いい方向に進んでいくんだろうなという印象は受けました。また、去年の11月に支援学校の校長先生たちとZoomで意見交換をした際にも、だいぶ細かく熱心に取り組んでいることも知りましたので、楽しみな部分がすごくあります。

あと、実際に私が分かることとすれば、ご説明にもありましたけども、学生のプレゼンテーションの能力というのは確実に上がってくると思います。世界的に見ても、日本人の学生のスキルというのはそう高くないと思いますが、社会に出てからも必ず使えるものですから、こういう教育やこういう端末が自立支援の道具になっていくことを期待しています。

一方で、ICTの負の部分ということもしっかりチェックしていく必要があると思います。こういう話を聞いて、有名な話で思い出すのは、ビル・ゲイツやスティーブ・ジョブスが、自分の子どもには渋ってなかなか与えなかったと。だから、きっとそういう負の部分の彼らは分かっているんだろうと思います。高校生ぐらいになれば、そういった部分もだいぶ自分でクリアしていけるとは思います。最近、書店で『スマホ脳』という本を手にとって見てみたのですが、集中力が低下したり記憶力が落ちていくので、最終的には学習効果が低下していくんじゃないかというような、だいぶ怖いことが書かれていました。そういった部分もチェックする。もちろん、コミュニケーションとか役に立つツールではあるんですけども、何か試練にさらされているなという気がしてなりません。

そこで、どういったことに気を付けていかなきゃいけないのかというと、一つはきちんとルールをつくるということだと思います。第3次岡山県教育振興基本計画にも、そのあたりはちゃんとスマホ・ネット対策の推進ということで具体的に書かれていますので、しっかりセットでやっていかなきゃいけないですし、家庭と学校とか地域とか、いろんなところが連携していく必要性があると思います。

もう一つは、低下している集中力や記憶力を活性化させるには、運動がいいことが分かっているということですから、新しい習慣づくりの取組をしっかり一方では進めていって、

知・徳・体の「体」ということで、学校でもだいぶ力を入れて取り組んでいると思います。こういうコロナ禍だからこそ、運動という機会は大事にしていかなければならないと、個人的にも考えている次第です。

しっかりこれからも勉強していったり、自分の周りの保護者にも意見を聞いてみたいと思っています。

【伊原木知事】

どうもありがとうございました。

【教育委員】

私は、先ほどの和気閑谷高校の報告を聞いて、本当にすごく可能性が広がっていくんだろうなと期待が持てました。和気閑谷高校がこれだけやっても、先生方のアンケートを見ると、やはり苦勞されているんだなというのがよく分かったので、これを全県に広げていくにはどういう対策が要るのだろうかというのは、悩ましいなと思いました。3年間やっていて、先生方はそれでもうまく使いこなせないというご回答。これは、中身をよく知ったからこそだとは思いますが、そういったところをどうやって先生方が上手に使いこなしていけるのか。また、今度は iPad から Chromebook に変更ということで、私もイメージ的には Chromebook のほうが使いやすいと思うんですが、今まで iPad でやっとならしたのにという方もいらっしゃるんじゃないのかなと思うと、そこも心配だったりします。いずれにしても、効果的な活用というか、それを蓄積して全県に広げていくような、対策が要るんだろうなというふうに感じました。

先ほど言われたように、負のもの、デメリットも確かに多くて、私も授業で普段使うのですが、やはり G Suite は大変よくできているんですが、長時間見るのは、先ほど言われたようにブルーライトの問題があります。学生は長時間、裸眼で見えていますから、それがやっぱり心配だし、それから睡眠がみんなガタガタになっていくわけなんですね。夜遅くまでずっと見ちゃうので。授業を見ればいいんですけど、違うものを見ちゃう。ついつい開いちゃうから、そういったところを、生徒たちが自分でちゃんとコントロールできるのかなというのが心配で。だから、そういうのも併せて自動管理できるようなものがあればいいなと感じています。

それから、私もそうなんですけど、ついつい文字を書くこと自体がなくなるんです。やっぱり板書にはすごく意味があって、見たものを写して手で書いていくというのは、漢字、ひらがなも丁寧に使えるとか、きれいな字が書けるとか、それはやっぱりすごく大事な取組なので、何でもかんでもスクショでというのはどうかと思います。

【伊原木知事】 100%じゃなくてね。

【教育委員】

要はバランスですよね。どこの部分は板書で、どこはスクショでと。その辺もやっぱり、授業をやっていく中で先生方が蓄積して行って、効果的な割合にさせていただけたらなど。期待と心配と両方あります。

【伊原木知事】

どうもありがとうございました。

【教育委員】

世の中がどんどん進んできて、教育現場も取り残されずにデジタル化が進んでいくのはいいことなので、それは本当に素晴らしい価値があることだと思います。今、成果のところで報告していただいたんですけど、いわゆるGIGAスクールを進めて行って、教育の質が上がると同時に、教育のスピードが上がるとということが求められると思います。とても質が上がったのはいいことですし、教育に対する取組のスピードも上がってきたと、先ほどおっしゃったんですけど、若干、先生方がこれから大変だろうなど。先生方の教え方、子どもたちは学び方です。ここにステップアップを書いているんですけど、子どもたちの学び方に対するステップアップは明確なんですけど、先生方の教え方のステップアップを明確にしていけないと、格差が出てしまう。我々教育委員会とすれば、そこをきちっと埋めていくような仕組みをつくっていかないといけないんじゃないかなと思っています。これからは避けて通れないことだし、いくつかの問題はあるにしても、どうやって進めていくのかというようなことを、私も一生懸命取組みたいなというふうに思います。

【伊原木知事】

ありがとうございます。

【教育長】

つい先日、中国地方の教育長のオンラインの会議があったんですけども、最大の課題が実はこれです。今、どこも一生懸命、取り組まれているんですけど、自分としてこれは岡山県の強みだなと思ったのは、まず今、和気閑谷をはじめとして、既に導入済みの学校が3校あるということなんです。どこも一生懸命やられてますけども、まだやっぱり手探りの状態です。さっき、どうやって広げていくのかというときに、当然基礎的な研修は教員みんなにやらせるわけですけども、まず使っている学校を見ることができるといのは非常に大きいです。今、和気閑谷もそうですけども、林野、操山も含めて、とにかく見に行かせています。和気閑谷もそうでしょうけど、実は県外からもどんどん来ています。これがあるというのは大きいです。

それから、これは意外と私自身も気が付いてなかったんですけども、どこの教室に行っ

でもプロジェクターがある。岡山では当たり前ですが、意外と他県では当たり前ではなくて、今一生懸命付けている状態です。つまり、ある程度教具としてのパソコンであったり、拡大投影機レベルの人もいるんですけども、ICTの活用が先生たちの力量としても、あるものが当たり前になっているということは、コンピューターの使い方のレベルは大変なんですけども、割と日常の中にそれがある、子どもたちもそれがあるということなので、その点は強みかなと。それに加えて、ここで高速化にかなり予算をかけていただきましたので、それをやっぱり使っていかなきゃいけないというふうに思っています。

その辺の強みの中で、3つのICTのいいところというか、これからの有効性というのがお話の中にありましたけども、一つはお互いの活動が共有できる。あの画面の中に、ほかの子が何をやっているかを一瞬にして出せるというのは、やっぱり発表が苦手な子にしてみたら、手は挙げられないけれどもそこで見てもらえるということと、みんなで作業ができるということは大きいです。

それから、やった成果をずっと保存していける。ポートフォリオとしてクラウドの中に全部残っていくので、もっと言えば、小学校1年生で作ったものが高校3年まで残っていくということがこれからはあるんだろうと思うので、そういうことは非常に大きいです。

もう一つは、さっき Qubena の話がありましたが、個別にできることだろうと思います。アプリを使って、その子のレベルに合わせた個別最適化の学習が進められることは、非常に大きいのかなと思っています。

それからもう一つ、私がすごく大事だと思っているのは、さっきいろんな課題がありましたけども、デジタルが進んでいくのに合わせて、もう一つはリアルな教育をどれだけ進めていくかということだろうと思うんです。実は、和気閑谷高校は、このICTの部分でもすごいですけど、もう一方で「閑谷學」という地域学に非常に取り組んでいて、そこに子どもたちを出していき、人との関わりの中で学び、課題解決的な学習をしています。それを、ICTを使ってどういうふうにとまとめていくかという、リアルとデジタルの両方の幅を広げていくことがこれからの子どもたちには必要なんだろうなと。林野もそうですけども、例がありますので、それをしっかり広めていきたいなと思っています。

【伊原木知事】

ありがとうございました。

今日はプレゼンも非常に勉強になるプレゼンで、また実際にここまでできているということで、非常に頼もしい状況を教えていただきました。

私がお話をお伺いしてうれしかったのは、本当にこの教育現場が大きく変わる、主にいい方向に変わる可能性のあるすごい技術導入が起きていると。そのときに、地域全体、国全体として、その技術に背を向けるみたいなことがあったら、これは大変なことですし、その逆で、これで全てが改善するとか、全部そっちに乗っかってしまえということになると、後でその副作用でひどい目に遭ったりするわけです。新しい技術、これから学校を卒

業した後もいろいろ使って、いろんな仕事をしていくであろうことに慣れるためにも、もしくは今の教育をもっと効率的に深くやるためにも、やっていこう、楽しみだということと、それに併せて、体力のこととか、副作用のことだとか、生活リズムのことだとか、いろいろ心配なことも今から十分想定して気を付けていきましょうねという、非常に健全な発想の議論がなされているということでございます。これは本当に、基本的に試行錯誤、いろんなことをやりながら、うまくいった人の話を聞きながら、失敗談も聞きながらやっていくことなんだと思います。ぜひ、自分たちがやっていることがベストというのではなくて、お互い、学校同士、県同士、いろんな話も聞いてきて、ちょっとでもいいやり方ができるように頑張っていたきたいと思います。県庁としても教育現場をしっかり応援していきたいなと思っているところでございます。

和気閑谷高校、非常に頑張っていてお祈りして、藤岡校長先生も、ぜひ引き続きよろしくをお願いします。

では、今日はどうもありがとうございました。